

「親父が倒れたんです。そのとき『実家の商売が終わってしまっていていいのか』と思ったら、それでいいのかと悩み始めた。自分は大工になりたいんじゃないか、と」

普通の会社員か、大工か。悩む村上さんの背中を押したのは、当時付き合っていた彼女。いまの奥様である。

「奥さんが“まだ、遅くないよ”と言ってくれたんですよ。その一言が大きかった。反対する親父を説得して、富山にある大工の職業訓練校に入学したんです」